

創立80周年に寄せて

JUSE

一般財団法人 日本科学技術連盟



ご寄稿への御礼

一般財団法人日本科学技術連盟 理事長 佐々木 眞一

一般財団法人日本科学技術連盟は、2026年5月1日をもちまして創立80周年を迎えることとなりました。

この節目の年を迎えるにあたり、本冊子の発行に際し、日頃より格別のご支援とご厚誼を賜っております企業・団体の代表者の皆様より、心温まるご寄稿を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

1946年の創立以来、当財団は我が国産業界における品質管理の普及・発展を使命として歩んでまいりました。その歩みは、デミング賞の普及、QCサークル活動の推進、統計的品質管理の普及、さらにはISOマネジメントシステムの審査登録事業など、多くの皆様のご理解とご協力のもとに築かれてきたものでございます。

本冊子にお寄せいただいたメッセージの一つひとつには、長年にわたるご支援の歴史とともに、品質経営に対する深いご見識と、未来への期待が込められております。これらのお言葉は、私どもにとって大きな励みであると同時に、これからの活動の指針となる貴重な財産であります。

近年、社会・経済環境は大きく変化し、企業に求められる提供価値も高度化・多様化しております。そのような中であって、品質管理は単なる製品やサービスの良さを保証する活動にとどまらず、顧客価値の創造、さらには社会課題の解決へとその役割を広げております。当財団といたしましても、「顧客価値創造」と「組織能力の獲得・強化」を両輪とした品質経営の実践を通じ、企業の持続的成長と社会の発展に一層貢献してまいり所存でございます。

創立80周年という節目は、これまでの歩みを振り返るとともに、次なる時代への新たな一歩を踏み出す機会でもあります。本冊子が、皆様とのこれまでのご縁を再認識し、今後のさらなる連携と発展の契機となれば幸いに存じます。

結びに、本冊子の発行にあたりご多用の中ご寄稿をお寄せいただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年5月

目次

■ご寄稿への御礼

一般財団法人日本科学技術連盟 理事長 佐々木 眞一

■感謝を込めて 創立80周年の節目に

アクシアルリテイリング株式会社 取締役社長 CEO 原 和彦…………… 1

■一般財団法人日本科学技術連盟 創立80周年に寄せて

旭化成株式会社 取締役会長 小堀 秀毅…………… 2

■80周年に寄せて

株式会社神戸製鋼所 代表取締役社長 勝川 四志彦…………… 3

■日科技連創立80年への祝辞

株式会社小松製作所 取締役会長 小川 啓之…………… 4

■創立80周年に寄せて

株式会社すかいらくホールディングス 代表取締役会長 CEO 谷 真…………… 5

■祝・創立80年

株式会社竹中工務店 取締役社長 丁野 成人…………… 6

■創立80年に寄せて

DMG森精機株式会社 代表取締役社長 森 雅彦…………… 7

■創立八十周年に寄せて

株式会社デンソー 代表取締役社長 林 新之助…………… 8

■日本的TQMを生み育て、そして……

東京大学名誉教授 飯塚 悦功…………… 9

■品質管理の専門家として60年余、——日科技連のお陰！

東京理科大学名誉教授

アジア品質ネットワーク（ANQ）名誉会長 狩野 紀昭…………… 10

■創立80年に寄せて

トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長 豊田 章男…………… 11

■創立80年に寄せて

日本経済団体連合会 会長 筒井 義信…………… 12

■日本科学技術連盟 創立80周年に寄せて

日本商工会議所 会頭 小林 健…………… 13

■ 80年培ったQCの礎を、イノベーションの源に 日本電気株式会社 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 森田 隆之	14
■ 創立80周年に寄せて パナソニックホールディングス株式会社 代表取締役 社長執行役員 グループCEO 楠見 雄規	15
■ 創立80年に寄せて 株式会社日立製作所 取締役会長 代表執行役 東原 敏昭	16
■ 創立80年に寄せて 三菱電機株式会社 代表執行役 執行役社長 CEO 漆間 啓	17
■ 日本科学技術連盟 80周年に寄せて 株式会社安川電機 代表取締役会長 小笠原 浩	18
■ 80年の歩みに敬意を表して 楽天グループ株式会社 代表取締役 上級副社長執行役員 グループCOO 百野 研太郎	19
■ 80周年に寄せて 株式会社良品計画 代表取締役社長 清水 智	20
■ A Shared Legacy of Quality: 80 Years of JUSE and ASQ David B. Levy American Society for Quality (ASQ) 2026 Board of Directors Chair Sid Bhatnagar American Society for Quality (ASQ) Chief Executive Officer	21 ~ 22
■ Congratulations to JUSE on 80 years of Quality Excellence Paulo SAMPAIO president of EOQ	23 ~ 24
■ Congratulatory Message on the Occasion of the 80th Anniversary of JUSE Lars Sörqvist Chair, International Academy for Quality	25 ~ 26
■ “A Transformation Journey with JUSE: Reflections from Indian Experience” Venu Srinivasan TVS Motor Company Chairman Emeritus	27 ~ 28

感謝を込めて 創立80周年の節目に



アクシアル リテイリング株式会社
取締役社長 CEO 原 和彦

一般財団法人日本科学技術連盟創立80周年を心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、日本の科学技術の発展と産業界における品質向上に多大なるご尽力を重ねてこられましたことに、深甚なる敬意を表します。

第二次世界大戦後、日本が復興から高度経済成長へと歩みを進める過程において、品質管理および統計的手法の普及は産業競争力を支える重要な基盤となりました。その中心的役割を担ってこられたのが日本科学技術連盟（以下日科技連）であり、教育・研究・普及活動を通じて、多くの企業や技術者に学びと実践の機会を提供してこられました。品質管理の理念を社会に根づかせ、世界に誇る「日本品質」を築き上げるうえで果たしてこられた役割は誠に大きいものがあります。

弊社におきましても、1980年にはじまったTQM活動の歩みは日科技連の活動と深く関わっております。当初はQC手法や活動の進め方に関する明確な指針もなく、教育体制も十分とは言えない中で、手探りで取り組みをすすめていました。そこに、QCサークル北陸支部新潟地区に派遣した社員が、実践的な知見を社内に持ち帰り、研修講師としてQCの基本的な考え方や活動の進め方を伝え、ようやく軌道化できるようになりました。さらに社内に推進専任部署を設置し、日科技連が主催するセミナー等で学んだ知識の内製化を図るとともに、社内教育体系の整備を進めてまいりました。現在では、「TQMは経営の根幹」と位置づけ、より品質レベルの高い商品やサービスをご提供すべく研鑽にはげんでいます。こうした取り組みの積み重ねにより、弊社は2020年度に小売業として初めて日本品質奨励賞TQM奨励賞を受賞することができました。この受賞は、長年にわたる日科技連からのご指導の賜物と深く感謝いたしております。わたしたち食品スーパーマーケットは、まだまだ生産性が低く、改善の余地の大きい業界です。全国スーパーマーケット協会では、8年前から改善活動普及委員会を通じてTQM活動の普及に取り組んでいますが、ここでも貴協会からのご支援を頂き、ようやく広がりを見せてきたところです。

創立80周年という大きな節目を迎えられたことに改めて深い敬意を表するとともに、今後も日本の品質経営を牽引する存在として、ますますのご発展を心より祈念申し上げます。

一般財団法人日本科学技術連盟 創立80周年に寄せて



旭化成株式会社
取締役会長 小堀 秀毅

一般財団法人日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、産業界の品質向上を力強く牽引され、日本の品質経営の礎を築かれてきた貴連盟の功績に深く敬意を表します。

これまで貴連盟は品質管理・統計的手法の普及、人材育成、企業間の知見共有を通じて、ものづくりの基盤を支えてこられました。特に、QCサークルの推進やTQMの体系化は、多くの企業が品質を競争力の源泉とするうえで不可欠な思想となり、私どもにおいても組織文化の重要な柱として根づいております。

当社では、創業以来「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献する」という理念のもと、品質を付加価値を生み出す重要な経営基盤として位置づけ、さまざまな取り組みを進めてまいりました。2016年には、グループ全事業を統括する品質保証部を設置し、全社横断での品質基盤の強化と人材育成を推進しています。さらに2019年には、専任の品質保証担当役員を任命し、マネジメント体制を一段と強化することで、品質保証活動における横串での連携を進めております。

また、品質経営を経営の中核に据え、社長をはじめとする経営トップマネジメント層が参加する「品質経営セミナー」を開催しています。加えて、トップ自らが品質に対する考え方や責任について語る機会も設け、品質経営の重要性を全社で共有しています。そして、貴連盟より講師をご紹介いただき、専門的かつ実践的な講義を通じて中核人材の育成を図る「品質保証フォーラム」も、2017年より継続して実施しています。

一方、現場力を高める取り組みとして、各事業の品質保証責任者が集う「品質保証推進者連絡会」を開催し、事故・クレーム事例や成功事例を共有しながら、全社で品質リスクの未然防止とノウハウの横展開を行っています。さらに、社員一人ひとりの品質意識向上を目的に全員参加型の品質保証活動を推進し、品質保証部以外にもQC検定受験が広がるなど、品質基盤と品質文化の定着が進んでいます。

80年の節目を迎えた貴連盟が、これからも日本の科学技術力と産業競争力を牽引し続けられることを期待するとともに、当社としても引き続き皆さまと共に品質・技術の進化を追求し、品質経営の高度化に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

末筆ながら、創立80周年の慶賀を重ねて申し上げ、貴連盟のますますの発展と関係各位の更なるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

80周年に寄せて



株式会社神戸製鋼所
代表取締役社長 勝川 四志彦

この度は、日本科学技術連盟様が創立80周年という輝かしい節目を迎えられましたことに、心より敬意を表するとともに、謹んでお祝いを申し上げます。

日本科学技術連盟様は、日本の産業復興期より品質管理の普及と発展にご尽力され、とりわけ小集団改善活動・QCサークル活動を通じて、現場に根ざした改善の思想と文化を全国に広く定着させてこられました。その長年にわたる功績は、産業界の発展に多大な貢献を果たしてこられたものと深く敬意を表します。

KOBELCOグループにおきましても、QCサークル活動を、ものづくりの原点である「現場力」を高め、人材育成と品質向上を両立させる重要な取組みとして、長年にわたり推進してまいりました。その歩みの中で、日本科学技術連盟様には、QCサークル大会や各種研修、情報発信などを通じ、多大なるご支援とご指導を賜ってまいりました。日本科学技術連盟様とのご縁は、当社グループの品質マネジメントの深化と、社員一人ひとりの改善意識の醸成に大きく貢献していただいているものと実感しております。

近年、製造業を取り巻く環境は、デジタル技術の進展やカーボンニュートラルへの対応など、大きな変革期を迎えております。一方で、どのような時代においても、現場で働く人々が仲間と共に考え、議論し、改善を積み重ねていくQCサークル活動の基本理念は、変わることはない価値を持ち続けるものと考えております。これからの時代だからこそ、QCサークル活動が果たす役割は、これまで以上に重要性を増していくものと考えております。

日本科学技術連盟様が80年にわたり培ってこられた豊富な知見とネットワークを礎に、次の時代に向けたQCサークル活動のさらなる進化と発展を継続的に牽引されることを期待するとともに、当社グループとしても、引き続き品質向上と人づくりに真摯に取り組み、持続的な社会の発展に貢献してまいります。

日本科学技術連盟様の今後益々のご発展と、関係各位のご健勝を心より祈念申し上げます。

日科技連創立80年への祝辞



株式会社小松製作所
取締役会長 小川 啓之

日本科学技術連盟 創立80周年、誠におめでとうございます。

長年にわたり、科学的品質管理と経営革新の普及・発展に尽力され、わが国産業界の競争力向上を力強く牽引してこられましたご功績に、心より敬意と感謝を表します。

コマツは創業以来、TQMを経営の根幹に据え、「品質第一」の精神のもとで企業価値の向上に努めてまいりました。その実践と進化の過程において、日本科学技術連盟の皆様からは様々なご指導・ご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。

1964年の当社のデミング賞受賞は、品質を軸とした経営を全社で徹底する大きな契機となり、以降の持続的成長の礎となりました。その後も2010年代以降、海外現地法人である小松山推、コマツインドネシア、バンコクコマツがデミング賞を受賞し、TQMをグローバルに展開することで、各地域での組織能力向上と人材育成を着実に進めてきました。

さらに、直近では、当社特別顧問 大橋のデミング賞本賞受賞という栄誉を賜りました。顧客価値創造活動の推進により次代の品質経営をけん引する指針を示し、品質経営の真価を改めて示すことができましたことは、当社にとって大きな誇りであります。

不確実性が高まる時代にあっても、品質を基軸とする経営の重要性は一層高まっています。コマツは、品質と信頼性を追求し、新たな顧客価値の創造により、社会課題解決と収益向上の好循環を実現し、持続可能な成長を目指しております。これからもTQMの理念を大切にしながら、貴連盟とともに日本発の品質経営を世界へ広げてまいります。

日本科学技術連盟のさらなるご発展と、次の100年に向けた輝かしい歩みを心より祈念申し上げます。

創立80周年に寄せて



株式会社すかいらーくホールディングス
代表取締役会長 CEO 谷 真

一般財団法人日本科学技術連盟が、創立80周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。戦後の日本産業の復興期から現在に至るまで、品質管理の普及と科学的マネジメントの進展を通じて、我が国全体の国際競争力を盤石なものへと導いてこられた功績に、深く敬意を表します。

貴連盟との歩みは、2004年に生産拠点および品質管理部門において、「環境」と「労働安全衛生」のISO規格認証を取得したことに端を発します。以来20年余、多角的かつ示唆に富む審査を通じて、弊社の「食の安全・安心」の基盤を共に築き上げていただきました。今日、その指導領域は、「食品安全」や「持続可能な調達」といった社会的責任を伴う重要な領域へと広がりを見せております。今や、貴連盟は弊社のガバナンスと品質経営を根底から支える不可欠なパートナーとして、多大なる信頼を寄せております。

また、昨年開催された品質国際会議（ICQ 2025）におきましては、総合セッションへの参画という大変光栄なる機会を賜りました。各界を代表する経営者層が説く、品質経営と企業価値の不可分な相関性は、食のインフラを担う弊社にとりましても、改めて「品質こそが持続可能な経営の根幹である」との確信を深める得難い契機となりました。併せて同会議の期間中、弊社グループのニラックス株式会社がケータリングを通じ、微力ながら運営を支える一助を担わせていただいたことも、誠に意義深い経験であったと感じております。

昨今の急激な社会変容の中、品質に求められる定義は「製品の質」から「組織や社会の質」へとその範囲を広げています。このような不透明な時代なればこそ、貴連盟が長年培ってこられた、科学的アプローチに基づくマネジメントの重要性は、今後ますます高まっていくものと確信しております。

創立80周年という記念すべき門出にあたり、一般財団法人日本科学技術連盟の今後ますますのご発展と役職員の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝・創立80年



株式会社竹中工務店
取締役社長 丁野 成人

このたび、貴連盟が創立80周年という誠に喜ばしい節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

弊社は、1976年にTQCを導入し貴連盟のご指導のもと経営の質向上への取組みを始めました。その結果、1979年には非製造業で初となるデミング賞実施賞、1992年には日本品質管理賞を受賞することができました。今に続く「品質の竹中」としての評価を確立することができ、これも一重に貴連盟の継続的で丁寧なご支援とご指導の賜物であり、心より感謝いたしております。

引き続き弊社は、2009年に経営理念に次ぐものとして品質経営基本方針を定めTQM活動を継続、そして2015年、これまでのTQMの取組みを、バランススコアカードの視点で再編し、「竹中品質経営（TQM）」として体系化しました。「竹中品質経営（TQM）」は、経営理念のもと企業活動を方針管理、お客様満足活動、業務プロセス管理、能力基盤構築の4階層で捉え、経営トップ自ら診断、改善を主導する仕組みです。

特に能力基盤構築においては、貴連盟の提唱されるQC的ものの見方考え方、改善の手順、方針管理等が重要な基盤となっており、貴連盟なくしては弊社の品質経営の実現はあり得ません。

本年、弊社は中期経営計画2030をスタートさせ、地球環境向上に向け新たな挑戦を始めました。同時に、いままで築いた設計施工一貫体制をよりシンカ（進化×深化）させ、「品質の竹中」・「技術の竹中」・「環境の竹中」の評価を一層高める所存です。

弊社の経営理念「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を実現するため、今後とも貴連盟からの変わらぬご指導とご鞭撻を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

末筆ながら、貴連盟の益々のご発展と社会への一層のご貢献をお祈り申し上げます。

創立80年に寄せて



DMG森精機株式会社
代表取締役社長 森 雅彦

日本科学技術連盟の創立80周年、誠におめでとうございます。長年にわたり、日本の品質経営の発展を支え続けてこられたご功績に、心より敬意を表します。戦後の復興期から現在に至るまで、品質を通じて日本の産業競争力を高め、社会の豊かさを支えてこられた皆様の歩みは、まさに日本産業の礎そのものと言えます。

当社は2024年、デミング賞に挑戦し、幸いにも受賞の栄誉を賜りました。この挑戦の過程では、数々のセミナーを通じて長年にわたり築き上げてこられた品質経営の思想や実践知に触れる機会を得ることができました。TQM導入当初は多種多様なお客様のニーズに対応することに課題がありましたが、企業文化の変革や人材育成、そしてお客様価値の向上に向けた取り組みを、より深く、より体系的に進化させることができたと思います。この経験は、当社にとって大きな財産であり、貴財団の存在意義の大きさを改めて実感するものとなりました。

第118回品質管理シンポジウムにて、当社は主担当を務めさせていただき、「変化」をキーワードに取り上げました。品質の概念もモノの出来栄だけでなく、サービス、社会システム、さらには持続可能性へと広がってきました。デジタル技術の進化やグローバル化の加速といった事業環境の大きな変化の中で、科学的アプローチに基づく問題解決能力と、人を中心に据えた価値創造の思想は、未来の産業と社会を支える普遍的なものであり、貴財団が果たす役割はこれまで以上に重要性を増していると考えています。

80周年という節目は、皆様のためまぬ研鑽と情熱が世代を超えて受け継がれてきた証であり、その歩みが未来につながる大きな力となることを確信しております。私たちがデミング賞受賞企業として、その理念を次の世代へつないでいけるよう、引き続き学び、変革し続けてまいります。

結びに、創立80周年を心よりお祝い申し上げますとともに、日本科学技術連盟のさらなる発展と、関係者の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

創立八十周年に寄せて



株式会社デンソー
代表取締役社長 林 新之助

一般財団法人日本科学技術連盟が、創立八十周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。科学的経営管理技術の普及を通じ、日本の産業を足元から鍛え続けてこられた歩みに、深い敬意を表します。

貴連盟は創立以来、品質を単なる管理技術としてではなく、「経営そのもの」として問い続けてこられました。事実に向き合い、考え抜き、現場でやり切る。その積み重ねこそが企業の競争力であり、社会からの信頼を生む、この揺るぎない思想を、日本の産業界に根付かせてきた意義は計り知れません。

デミング賞やQCサークル活動に象徴される取り組みは、品質を人づくり・組織づくりと一体で高める文化を国内外に広げてきました。現場の一人ひとりが主体的に課題を見つけ、改善を重ねる。その力こそが、社会や お客様の期待に応え、科学的経営を実装する原動力であると、私自身、強く実感しています。

デンソーは、品質を経営の出発点とし、「環境」「安心」の価値を社会に届けることに真正面から向き合ってきました。1961年に自動車部品業界で初めてデミング賞実施賞を受賞して以来、その姿勢は一貫しています。貴連盟からいただいた学びと実践知は、社員の判断力と現場力を鍛え、今日のデンソーを形づくる大きな支えとなっています。

不確実性が高まる時代にあっても、答えは現場にあり、品質を軸に「何が最善か」を考え抜き、行動し続けることが企業の責任です。創立八十周年を新たな起点として、日本科学技術連盟がこれからも産業界の背骨として、より良い社会を切り拓いていかれることを心より期待しております。

日本的TQMを生み育て、 そして……



東京大学名誉教授
飯塚 悦功

日本科学技術連盟（日科技連）が創立80周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。私は現在79歳ですので、80歳の日科技連は私にとって一歳年上の、頼もしくも導き手となる「お兄様」のような存在です。

日科技連の存在を知ったのは23歳のとき、大学卒業後でした。応用統計が専門でしたので、大学院に進んだときベーシックコース（BC）の書記にいただきました。研修の2/3は統計に関する講義でしたので、理屈は知っていると慢心し、講義を真面目に聴かず、修了証をいただけませんでした。それでも、近藤次郎先生による「確率論」の講義では、確率という難しい概念をこんな風に教えるのかと感動し、心をこめて講義録を書いた覚えがあります。

その後、BCの班別研究会の講師になったことを機に、私の視野は広がりました。BCの運営や重回帰分析のテキスト執筆、部課長コース、役員コース、ソフトウェア品質（SQiP）での講義や運営に携わりました。QCS（品質管理シンポジウム）にも参加させていただき、多くの優れた方々にお会いし、実世界での事業の何たるかを学びました。デミング賞にも関わり、審査委員会委員長も務めました。TQCからTQMへの呼称変更に伴う概念整理を検討するTQM委員会の委員長も務めました。

こうした過程を通して、私は品質管理の深遠さを学びました。管理とは目的を合理的に達成するための全ての活動であり、品質に内在する深遠なる概念を結びつけることによって、極めて適用範囲の広い目的達成論となることが分かりました。品質概念で重視するのは顧客ニーズで、これは外的基準での評価を意味し、換言すれば目的志向の思考・行動にほかなりません。それを達成する方法論として、管理に関する珠玉のような原理・原則も埋め込まれています。

これが品質管理の本質であり、「一般化目的達成学」、すなわち妥当な目的を設定しそれを合理的に達成するための思想・方法論の体系からなる科学なのだと思える思いでした。SQCを起点に、管理における人間的側面にも注目してTQCへと進化させ、さらに成熟経済社会における経営の有力ツールとしてのTQMへと育て上げてきた80年、これが日科技連の80年なのだ、と再認識できます。

この80周年が、品質の真意を広く「目的」ととらえ、これを達成するための思想・方法論の体系からなる「一般化目的達成学」へと進化する確かな道標となることを期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

品質管理の専門家として60年余、 ——日科技連のお陰！



東京理科大学名誉教授
アジア品質ネットワーク (ANQ) 名誉会長
狩野 紀昭

創設80周年誠におめでとうございます！ 1963年4月、東京大学工学部4年生の時、石川馨教授に卒論のご指導を仰ぐことになり、同年秋開催の**一般財団法人日本科学技術連盟**（以下、**日科技連**）主催の第25回品質管理ベーシックコース（BC）に書記として参加する機会を得た。当時のBCで取られていた、一コマ3時間の講義の前半を若手が、後半を大先生が担当する方式に従い、第26回セミナー第1月「品質管理とは」の講義前半を、石川先生の前に担当せよと命じられた。「統計的方法」について2、3回後のセミナーで講義というのであればまだしも、青天の霹靂であった。

私がQCを学び始めた1960年代には、QCサークルが誕生し、SQCからTQCへと移行する激動の時期であった。QC七つ道具、[問題解決型] QCストーリー、実験計画法の活用が目覚ましく、1970年代には、信頼性への関心が高まり、方針管理が多くの企業に導入された。さらに、品質表/品質機能展開（QFD）の提案があり、多変量解析の応用も盛んになった。1980年代には新QC七つ道具、タグチメソッドが広がり、1990年代には[課題達成型] QCストーリーも登場した。こうして品質管理は製造段階にとどまらず、技術部門や営業段階へと拡張され、全社的品質管理（TQM）として深化していった。

こういった産業界におけるTQMの発展に大きく寄与したのが、**日科技連**であった。階層別・専門別の各種セミナーに加え、品質管理シンポジウム（QCS）や品質管理大会（今日のQCフォーラム）が果たした役割は極めて大きい。QCSにおけるトヨタ、コマツ、コニカ、日本ビクター（レコード）、館山寺ロイヤルホテル等の発表から受けた感動は今も忘れ難い。また、**日科技連**が事務局を担うデミング賞の審査委員として、受審組織のTQM推進の成果を現場で目の当たりにした経験も、私にとってかけがえのない学びであった。これらの**日科技連**の活動を支えたグループ会社の日科技連出版社、日本科学技術研修所の存在も特筆すべきであろう。

今日、世界のどこの講演会でも、私の紹介はKanoモデルへの言及から始まる。このモデルは、1977年、**日科技連**から米国西海岸におけるQCサークルの実態調査に派遣された際に、現地でQCサークル推進に携わられていた行動科学専門家から学んだHerzberg博士の動機づけ衛生理論からの類推により導き出した。その後、アリストテレスの品質論と結びつき、「魅力的品質と当たり前品質」理論として結実し、論文を公刊するに至った。

2000年から22年間にわたり**日科技連**の理事を務めた。この在任期間は、鈴江康平元理事長に次ぐ長さとのこと。この間、本来2023年に開催される筈であったが、コロナ禍の影響で埋もれてしまっていた国際品質会議（ICQ）を掘り起こし、2025年開催へつなげることが出来た。ささやかながらも理事としての一つ貢献となったのではと自負している。

振り返れば、私の60年余にわたる品質管理屋としての歩みは、**日科技連**とともにあったと言ってよい。研究者としての成長も、実務家としての経験も、その多くが**日科技連**の活動、あるいはその周辺から生まれたものである。まさに、「**日科技連**のお陰」である。ありがとう！おおきに！だんだん！にふえー！

創設100周年に向けて、ますますのご発展を心より祈念申し上げます！

創立80年に寄せて



トヨタ自動車株式会社
代表取締役会長 豊田 章男

日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

私にとりまして、日本科学技術連盟といえば、父、章一郎の顔が真っ先に思い浮かびます。今も続く品質管理シンポジウムが冬の箱根で開催していた頃、雪の坂道をセンチリーで滑りながらも毎年楽しみに参加していた姿が懐かしく思い起こされます。

戦後、日本の自動車産業が欧米に大きく後れを取り、「高かろう、悪かろう」と言われた時代。当時社内では、従業員の教育不徹底、管理者の力不足、連携の悪さなど、課題が山積みであり、日本科学技術連盟を通じて多くの大学の先生方から指導を頂きながら改善に取り組んだと聞いております。

時代はモータリゼーションを迎え、お客様の期待に応えるために工場の新設や人員増加を進める中でも、組織を鍛え、人を育て、モノづくりの心を育てる「デミング賞」に全社をあげてチャレンジしたことについて、父は、常々、「大きな意義があった」と申しておりました。この活動を通じて、「品質は工程で造りこむ」という考え方がすべての社員に浸透し、一人ひとりが品質に責任を持つ社内風土の礎になったからです。

－ 検査ばかり厳しくしてもモノは良くならない。モノを良くするには、モノづくりをしている人が、自分でモノをつくる気にならなければダメなんだ。－

これは父の言葉です。私は、その背中を見て、愚直なモノづくりと人づくりを通した品質の重みを学んでまいりました。その学びがあったからこそ、社長就任直後の2010年に直面した大規模リコール問題で米国公聴会の証言台に立った時、トヨタの過去、現在、未来すべての責任者として「逃げない、嘘をつかない、ごまかさない」という覚悟をもって臨めたのだと思っております。

「モノづくりは人づくり。人が品質を造りこむ」ということを心に刻み、今後も、私自身が現場に立ち、仲間とともに「もっといいクルマづくり」に取り組んで参ります。

最後に、日本科学技術連盟の長年に渡る歩みに感謝すると共に、今後のさらなる発展を願い、80周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

創立80年に寄せて



日本経済団体連合会
会長 筒井 義信

日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

本年、同じく創立80年を迎える経団連は、2024年に発表した「FUTURE DESIGN 2040」において、目指すべき国家像の一つとして「科学技術立国」を掲げました。国際的な分断や対立が深まる中、人口減少や資源制約等の構造的課題を抱えるわが国が持続的な成長を実現するためには、科学技術の力によって新たな価値を創造し、世界に提供・貢献することで、国際社会から信頼され、必要とされる国であり続けることが不可欠です。

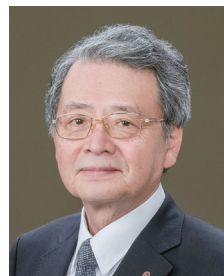
その実現にあたっては、わが国が長年にわたり積み重ねてきた「信頼」が極めて重要な基盤となります。日本は産業用ロボットやソフトウェアをはじめ多様な製品・サービスを世界に提供し、国際社会において高い評価を得てきました。製造業を中心に培われてきた品質への徹底したこだわりや、現場に根差した改善の積み重ねは、日本産業の強みとして広く認識されています。こうした信頼のもと、現場で蓄積されてきた高品質のデータや運用ノウハウは、わが国産業競争力の源泉であり、今後の成長戦略を描くうえでも欠かすことのできない資産です。

折しも世界的に競争が激化する中、品質と信頼を礎として日本の強みを一層高めていくことが戦略的不可欠性に直結します。そのためには、優れた技術や品質を国際標準として確立し、国際的な競争力へと結び付けていく取り組みが重要です。品質向上の推進や標準化活動を通じて、国際社会からの信頼をさらに高めていく観点から、長年にわたり品質向上の普及と発展に尽力してこられた日本科学技術連盟の役割は、今後ますます大きくなるものと期待しております。

日本経済はいま、民間の設備投資や研究開発投資、人的投資を呼び込む「投資牽引型経済」への転換が求められています。その実現には、政府による日本成長戦略の着実な推進とともに、企業自らがマインドセットを変革し、未来への投資に踏み出していくことが重要です。経団連としても、日本が培ってきた信頼を礎に、官民連携のもとで国内投資の促進に取り組んでまいります。

末筆ではございますが、貴連盟の益々のご発展をお祈り申し上げます。

日本科学技術連盟 創立80周年に寄せて



日本商工会議所
会頭 小林 健

一般財団法人日本科学技術連盟が創立80周年という大きな節目を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

貴連盟は1946年の創立以来、わが国の科学技術の振興と産業競争力の強化に多大なる貢献をしてこられました。とりわけ、品質管理（QC）の概念を日本に導入し、普及・定着させた功績は計り知れません。戦後の復興期から現在に至るまで、日本製品が世界において「高品質」の評価を確立するに至った背景には、貴連盟の不断の啓発活動と実践的支援があったことに、深く敬意を表する次第です。

日本商工会議所は、毎年実施される「品質月間」の主催機関として、全国の企業における品質意識の向上と品質管理活動の普及に向け、貴連盟と緊密に連携してまいりました。また、「品質国際会議2025」への後援等を通じ、品質管理の国際的価値向上にも寄与してきたところであり、こうした貴連盟との共創の積み重ねは、わが国産業界にとって大きな財産となっております。

現在、わが国経済は、円安・原油高に伴う原材料・エネルギー価格の高騰、深刻な人手不足、消費低迷など、厳しい環境に直面しています。このような状況下で中小企業が持続的成長を遂げるためには、イノベーション創出による「自己変革」、産学公金や地域間連携による「価値共創」を通じ、「稼ぐ力」を高めることが不可欠です。

さらに昨年、政府において「新たな国際標準戦略」が策定され、国際標準を通じた社会課題解決と市場形成に向けた官民一体の取組みが進む中、ISO認証にも携わる貴連盟の役割は、今後一層重要性を増すものと考えます。

当所としても、特許庁・中小企業庁・独立行政法人工業所有権情報・研修館・日本弁理士会と構築した「知財経営支援ネットワーク」を最大限に活用し、中小企業における標準化をはじめとする「知財経営」の推進に取り組んでまいります。

貴連盟におかれましては、80年の長きにわたり培われた豊かな知見と広範なネットワークを基盤に、時代の変化に即した新たな価値創造を牽引され、わが国の産業競争力を支える中核として、引き続き力強いリーダーシップを発揮されることを期待しております。

結びに、貴連盟の今後のさらなるご発展と、関係者の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

80年培ったQCの礎を、 イノベーションの源に



日本電気株式会社
取締役 代表執行役社長 兼 CEO
森田 隆之

一般財団法人 日本科学技術連盟の創立80周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。その不断の歩みによって我が国の産業に大きく貢献されてきたことに深く敬意を表します。

80年の間、産業界を取り巻く情勢やテクノロジーは劇的に変化し続けています。貴団は「品質管理（QC）」の揺るがぬ価値観のもと、現場と経営をつなぐ実践的な知見を発信され続け、それが世界からの日本の産業界への信頼の礎になり、数々の挑戦の後押しとなりました。会員企業間のみならず、そこかしこで「日科技連」との略称が聞かれることはその証左です。

企業が持続的に成長し社会価値を届けるには「変わり続けることを変えない」姿勢が重要です。NECグループは創業以来、通信・IT・社会インフラの領域で絶えず自己変革を繰り返してきました。現在はAI・セキュリティ・DXといった先進デジタルテクノロジーを最大限に活用し、自らを「社会価値創造型企業」にアップデートしています。その実践知の裏付けが、いまDXを推進するお客様にご評価いただき、その価値が業績にも表れています。

変革を進めるうえでは「多様な人材・知見の融合」が力を発揮します。そう考えますと、貴団の現場・学術・産業界をつなぐ活動や、人材を育てる数々の取り組みは、次代に向けた意義深いものです。私もNECグループの変革について会員企業の皆様にお話しする機会をいただきました。微力ながら産業界に貢献できたのであれば嬉しく思います。

80年のその先に向け、貴団は変化し続けることでしょう。産業界に広がるネットワークから最新の知見を結集し、それを共有して発展を後押しし、またその知見を集める。このサイクルを回し続けることが、より良い未来社会の実現につながります。NECグループとしてもDXに関する「活きた知見」を広く産業界にお届けし、さらなる貢献をして参ります。

80周年という大きな節目を迎えられたことに改めてお祝いを申し上げますとともに、日本科学技術連盟のますますのご発展と、会員各社様のご発展・ご多幸を祈念いたします。

創立80周年に寄せて



パナソニックホールディングス株式会社
代表取締役 社長執行役員
グループCEO 楠見 雄規

一般財団法人日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり、日本の品質管理・科学的アプローチを支えてこられた皆様に、深い敬意を表します。

貴連盟は、統計的品質管理の普及と実践といった取り組みを通じ、日本の産業が世界から信頼される礎を築いてこられました。特に品質を単なる工程管理(QC)だけではなく、「企業の姿勢そのもの(TQM)」へと昇華された歩みは産業界の範となり、その考え方が多くの企業にとって指標であり続けています。

私共も、品質とは、単に製品やサービスの出来栄だけでなく、社員一人ひとりの仕事がお客様のニーズを満たす度合いであり、創業以来、お客様大事の理念の中心であると考えております。

お客様のくらしのニーズやビジネスの課題にお応えしたいという思いを起点に、社員一人ひとりが現状に満足することなく、あらゆる視点で改善の余地を次々と見出し、改善・変革を積み重ねる。私共はこのような「変革の常態化」で、品質を高め、社会やお客様へお役立ちを果たし続けてまいります。

今日、AI技術の急速な進展により、私共の事業も大きな変革期を迎えています。効率化が求められる一方で、品質の本質が揺らぐことがあってはなりません。データやAIを活用しながらも、お客様と現場の声を深く理解し、その気づきをもとに品質を高め続けることが重要と考えています。品質を「守る」だけでなく、「創る」存在へと広げてゆく。これこそが、今の時代に求められる品質経営の姿だと捉えています。

貴連盟が長年にわたり育ててこられた科学的アプローチ、継続的改善、人材育成の思想は、今後の日本の品質競争力を支える重要な基盤となるものです。

これからも、産業界全体の発展と企業の品質基盤の向上に向け、貴連盟の諸活動が大きな役割を果たされることを期待しております。

末筆ながら、日本科学技術連盟のさらなる発展と、ご関係の皆様方のご健勝・ご活躍を心より祈念申し上げます。創立80周年という輝かしい節目が、次の時代に向けた新たな飛躍の起点となることを願い、心からのお祝いの言葉とさせていただきます。

創立80年に寄せて



株式会社日立製作所
取締役会長 代表執行役 東原 敏昭

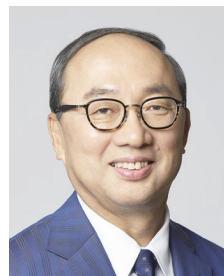
この度、日本科学技術連盟が創立80周年という輝かしい節目を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。1946年の創設以来、品質を日本産業の競争力の源泉と位置づけ、TQMの普及、人材育成、国際交流などを通じて、我が国の産業発展を力強く支えてこられた貴連盟のご功績に、深く敬意を表します。その歩みは、日本のものづくりと経営の進化を体現するものであり、今日の日本産業に対する高い信頼の礎となっております。

近年、AIやデジタル技術の急速な進展、社会課題の複雑化などを背景に、産業・社会の構造が大きく転換する中で、貴連盟においては、品質の意味を「モノの出来栄え」から「社会や顧客の期待・ニーズを満たし続ける度合い」へと再定義されています。さらに、そうした考えのもとで提唱されている、顧客価値創造と組織能力向上を両輪とし、品質経営を企業価値経営へと進化させる考え方は、まさにこれからの産業界に求められる指針であると強く共感しております。

日立製作所におきましては、統計的品質管理やTQMの導入、人材育成などを通じて、長年にわたり多大なご支援を賜ってまいりました。「品質第一」の考え方は創業以来一貫して受け継がれ、すべての事業に共通する価値観として根付いております。特に、安全・安心な社会インフラを支える社会イノベーション事業においては、品質こそが最も重要であり、製品・サービスの価値を高め、社会からの信頼を確かなものにします。品質は結果ではなくプロセスであり、経営トップの継続的な関与と全員参加によって磨かれるものであるという認識は、今後も変わることはございません。

これからの日立は、IT・OT・プロダクトを融合した社会イノベーション事業でグローバルリーダーをめざし、デジタルの力を最大限に活用しながら、品質を中核に据えた価値創出を推進してまいります。日本の強みである品質力を次世代へとつなげていくことが、私たちの重要な使命です。2025年に開催された品質国際会議に象徴されるように、貴連盟が80年にわたり培われてきた知見とグローバルなネットワークは、その歩みを支える大きな力であり続けるでしょう。今後とも、ともに学び、ともに進化しながら、品質を通じてより良い社会の実現に貢献していけることを、心より願っております。

創立80年に寄せて



三菱電機株式会社
代表執行役 執行役社長 CEO
漆間 啓

日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられますこと、心よりお祝い申し上げます。戦後間もない草創期より、我が国の科学技術の振興と品質管理の発展に尽力され、日本の産業基盤を力強く支えてこられました貴連盟のご功績に、深甚なる敬意を表します。

三菱電機は、創業間もない時期から品質の重要性を見据え、貴連盟の活動と歩みを共にしてまいりました。品質を「結果」ではなく「経営の基盤」として捉える考え方、現場に根差した改善を重ねる姿勢、人を育てることを重視する思想は、今日に至るまで当社のもので、根幹に息づいております。こうした価値観を共有し続けてこられたこと自体が、当社にとって大きな財産であると感じております。

近年では、2024年のクオリティフォーラムにおいて、当社が推進している改革の一つである「品質風土改革」をテーマに講演の機会を賜りました。品質を個人の努力に委ねるのではなく、仕組みとして確かなものにしていく考え方は、貴連盟が長年提唱されてきた品質管理の本質と深く通じるものであり、当社としても多くの示唆をいただきました。さらに、貴連盟のご仲介により、業種や立場を異にする複数企業の皆様と率直な意見交換を行い、品質風土や組織の在り方について相互に学び合う貴重な機会を得ています。また、貴連盟主催の講演会やシンポジウムには、当社グループから多くの社員が継続的に参加し、品質に向き合う姿勢そのものを学ばせていただいております。これらの学びは、世代を超えて人財を育てる大切な糧となっております。

現在、産業界は大きな転換期にあります。当社も、リスクを恐れず、新たな発想で価値を創出する「イノベティブカンパニー」への変革を目指しています。その変革においても、変わらず経営の根幹には「品質への信頼」があり、まさに貴連盟が培ってこられた知見と精神と共通しております。

創立80周年という節目を迎えられ、貴連盟が築かれてきた知見とネットワークは、今後とも日本の産業界を力強く導いていかれるものと確信しております。三菱電機も、その歩みに学びつつ、多様化する社会課題の解決に貢献する所存です。

結びに、貴連盟のさらなるご発展と、関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

日本科学技術連盟 80周年に寄せて



株式会社安川電機
代表取締役会長 小笠原 浩

日本科学技術連盟創立80周年、誠におめでとうございます。

貴連盟がその源流である工政会（1918年）、日本工人倶楽部（1920年）、全日本科学技術統同会（1940年）に遡る長い歴史を背景に、1946年の設立以来、わが国の科学技術および品質管理の発展に中心的な役割を果たしてこられたことに、心より敬意を表します。また、貴連盟の設立に際し、弊社創業者である安川第五郎が設立総会の委員長として携わったことは、当社としても大変感慨深いものがあります。

弊社の歩みもまた、日本の科学技術の発展と深く結びついております。1915年の創業以来、「電動機（モータ）とその応用」を事業の柱として事業領域を拡大し、“モータの安川”として日本の産業基盤を支えてまいりました。1960年代には、後に世界的に広がる「メカトロニクス」の概念を先駆けて提唱し、1977年には国産初の全電気式産業用ロボットを開発するなど、自動化・生産技術の革新を通じて、日本の科学技術発展の土台づくりに大きく寄与してまいりました。

当社の経営理念には「品質重視の考えに立ち、常に世界に誇れる技術を開発・向上させること」と掲げており、顧客視点での品質向上を経営の中心に据え、110年にわたり技術と製品の価値向上に取り組んでおります。貴連盟が長年にわたり培ってこられた科学的アプローチに基づく品質管理の体系は、まさに当社の理念とも深く響き合うものです。戦後の復興期から今日に至るまで、貴連盟が推進されてきた統計的品質管理、技術者育成、産学官連携の強化は、日本のものづくり競争力を支える重要な礎となっており、多くの企業が品質を企業文化として根付かせるうえで果たされた貢献は計り知れません。

今日、私たちを取り巻く環境は、デジタル化、カーボンニュートラル、労働力不足といった大きな社会課題に直面しており、スピード感を持った抜本的改革が求められています。このような大きな転換期においてこそ、技術の本質を見極め、社会に確かな価値を提供し続けるための「品質」の重要性は、これまで以上に高まっていると強く感じております。

80周年という節目にあたり、貴連盟のこれまでの多大なるご尽力に深く感謝申し上げるとともに、これからも日本の技術者がより高い視点で未来を切り拓き、日本の国際競争力のさらなる強化につながるよう、引き続き中心的な役割を担っていただけることを心より期待しております。貴連盟のますますのご発展をお祈り申し上げます。

80年の歩みに敬意を表して



楽天グループ株式会社
代表取締役 上級副社長執行役員
グループCOO 百野 研太郎

日本科学技術連盟が創立80周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。貴連盟は創立以来、わが国の産業・経済・社会の発展に多大な貢献を果たされ、日本の品質管理および科学技術の進歩を力強く牽引してこられました。その長年のご功績に、敬意を表します。

弊社楽天グループ株式会社も、2019年より賛助会員として貴連盟の活動に参画し、多くの示唆と学びを頂いてまいりました。楽天が推進してきた改善活動や品質保証活動、さらにはTQMの実践は、貴連盟が培ってこられた品質管理の原理原則を企業文化の礎として具現化してきた取り組みでもあります。

とりわけ2016年より開始したQCC活動は、グループ横断で推進を続け、2025年末時点で累計13,070名が参加、改善事例は10,490件に達しました。半期ごとの最終発表会には社長をはじめとする経営陣も出席し、優良事例の共有にとどまらず、次なる挑戦への鼓舞を行う場として定着しております。

これらの活動成果を、IT企業における品質実践事例として貴連盟を通じ広く発信する機会を頂いておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

AIをはじめとするテクノロジーの急速な進展や、海外巨大テック企業の台頭など、経営環境はかつてない速度で変化しています。こうした時代においてこそ、品質経営の原理原則は企業競争力の根幹を支える力となります。貴連盟が今後も日本、そして世界の品質リーダーを育成し、新たな時代を切り拓く存在であり続けられることを強く期待しております。

品質を経営の基盤に据え、持続的成長を実現する同志として、私どもも引き続き貴連盟の活動に貢献してまいります。

貴連盟のますますのご発展と、関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

80周年に寄せて



株式会社良品計画
代表取締役社長 清水 智

このたびは一般財団法人日本科学技術連盟創立80周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。創立以来、貴連盟が品質管理を中心とした経営管理技術の普及と発展に尽力されてこられたことに深く敬意を表します。

「企業価値向上経営懇話会」には元会長の金井政明がメンバーとして参画させていただいた時期もあり、弊社内での議論において新たな視座をいただきました。無印良品は地球環境や生産者に配慮した素材を選び、すべての工程において無駄を省き、本当に必要なものを本当に必要なかたちでお客さまに提供することを目指しています。同時に商品開発から店舗づくり、地域とのかかわりまで一貫して本質を見つめ続ける姿勢は、品質を単なる製品品質ではなく、くらしの質へと拡張して考えることにつながり、貴連盟が推進する品質経営の思想と深く共鳴していると感じております。

変化の激しい時代において、貴連盟が80年にわたり培ってこられた品質経営の重要性はますます高まっています。今後も社会の持続的成長に向けて大きな役割を果たされることを確信しつつ、更なる飛躍を心よりお祈り申し上げます。

A Shared Legacy of Quality: 80 Years of JUSE and ASQ



David B. Levy
American Society
for Quality (ASQ)
2026 Board of Directors Chair



Sid Bhatnagar
American Society
for Quality (ASQ)
Chief Executive Officer

Dear JUSE Leadership and Members,

On behalf of the American Society for Quality (ASQ) and our global community of quality professionals, it is our profound honor and pleasure to extend our warmest congratulations to the Union of Japanese Scientists and Engineers (JUSE) on the occasion of your 80th Anniversary. This remarkable milestone is a testament to your organization's enduring vision, exceptional leadership, and unwavering dedication to advancing quality worldwide.

Since its founding in 1946, JUSE has played a transformative role in shaping the global quality movement. Your pioneering work in quality control, most notably your stewardship of the Deming Prize and your foundational contributions to Total Quality Management (TQM), has elevated standards of excellence not only across Japan but around the world. The principles you have championed with rigor, continuous improvement, and a deep respect for both process and people have become cornerstones of quality practice in every industry and on every continent.

ASQ and JUSE share a bond that extends well beyond institutional cooperation. Ours is a partnership grounded in mutual respect, shared values, and a common belief that quality is not merely a technical discipline, but a force for human progress. Over the decades, we have learned from one another, inspired one another, and together strengthened a global community committed to making the world a better place through quality. We treasure this relationship deeply and look forward to many more years of meaningful collaboration.

As we reflect on eight decades of JUSE's extraordinary legacy, we are filled with admiration for all that you have accomplished and with excitement for the future you continue to shape. The quality profession needs bold, principled, and forward-looking organizations like JUSE now more than ever, and we are proud to stand beside you as partners in that vital work.

What makes this anniversary all the more meaningful is that 2026 marks a remarkable historical coincidence: ASQ, too, is celebrating its 80th anniversary this year. Founded in 1946, just as JUSE was taking shape across the Pacific, our two organizations came into the world at nearly the same moment, born of the same post-war conviction that quality, science, and human ingenuity could rebuild and improve society. That we have grown, evolved, and endured side by side for eight decades is a connection we hold with great pride. It speaks to something deeper than partnership; it speaks to a shared sense of purpose that has transcended borders and generations.

Please accept our deepest congratulations and heartfelt wishes for continued success, innovation, and impact in the years ahead. As we both mark 80 years of service to the quality profession, we celebrate not only your legacy and ours, but the enduring power of what we have built together. Here's to the next 80 years of excellence.

With great respect and warm regards,

(翻訳)

品質がつなぐ共通の歩み - JUSEとASQの80年

拝啓

米国品質協会（ASQ）および世界中の品質専門家を代表し、JUSEの80周年に際し、心よりお祝い申し上げます。

この記念すべき節目は、貴連盟が長年にわたり培ってこられた確かなビジョン、卓越したリーダーシップ、そして品質の向上に対する揺るぎないご尽力の証であると、深い敬意をもって受け止めております。

1946年の設立以来、JUSEは世界の品質運動の形成において、変革的な役割を果たしてこられました。品質管理分野における先駆的な取り組み、とりわけデミング賞の運営、そしてTQM（総合的品質管理）への基盤的な貢献は、日本国内にとどまらず、世界中に卓越性の基準を広げてこられました。厳格な取り組み、継続的改善、そしてプロセスと人の双方を尊重するという理念は、あらゆる産業、あらゆる地域における品質実践の礎となっています。

ASQとJUSEの関係は、単なる組織間の協力にとどまるものではありません。相互の尊重と共通の価値観に基づき、「品質は単なる技術分野ではなく、人類の進歩を支える力である」という信念を共有するパートナーシップです。

これまで私たちは互いに学び合い、刺激し合いながら、品質を通じてより良い世界の実現を目指すグローバルなコミュニティをともに築いてきました。この関係を私たちは大切にしており、今後も実りある協力関係が続くことを心より願っております。

JUSEが築いてこられた80年の歩みを振り返ると、その偉大な成果に深い敬意を抱くとともに、これから切り拓かれていく未来に大きな期待を寄せております。

品質の分野においては今、これまで以上に、JUSEのように大胆で信念を持ち、未来を見据えて行動する組織が求められています。私たちは、その重要な取り組みをともに担うパートナーとして、皆様と肩を並べられることを誇りに思います。

この節目がさらに特別な意味を持つのは、2026年が一つの印象的な歴史的偶然の年でもあるからです。すなわち、ASQもまた本年、80周年を迎えます。

1946年、太平洋を挟んでJUSEが誕生しつつあったのと同様時期に、ASQも設立されました。両組織は、品質、科学、そして人間の創意工夫によって社会を再建し、より良くしていこうという、戦後に共有された強い信念のもとに誕生したのです。

それから80年にわたり、私たちが並び立ちながら成長し、進化し、歩み続けてきたことは、私たちにとって大きな誇りです。

それは単なるパートナーシップにとどまるものではなく、国境や世代を超えて共有されてきた使命感の証であると言えるでしょう。

改めまして、心よりお祝い申し上げるとともに、今後ますますのご発展と革新、そしてさらなるご貢献をお祈りいたします。

品質の分野に80年にわたり貢献してきた両者として、その歩みと成果を称え合うとともに、これまでともに築いてきた価値の力強さを改めて実感しております。

次の80年に向けて、さらなる卓越の歩みが続くことを願っております。

敬具

デイビッド・B・レヴィ
米国品質協会（ASQ）2026年 理事会議長

シド・バトナガー
米国品質協会（ASQ）最高経営責任者

Congratulations to JUSE on 80 years of Quality Excellence



Paulo SAMPAIO
president of EOQ

The European Organization for Quality (EOQ) is pleased to join the Union of Japanese Scientists and Engineers (JUSE) in celebrating its 80th anniversary in May 2026. As one of the world's most influential institutions in the field of quality management, JUSE has shaped global thinking and practices for decades. EOQ is honoured to highlight this important milestone and to acknowledge JUSE's enduring contribution to quality, innovation, and organizational excellence.

EOQ's Congratulations and Appreciation

EOQ warmly congratulates JUSE on eight decades of leadership and excellence. Through its pioneering work, JUSE has had a profound and lasting impact on global quality management, including Europe's own evolution toward modern approaches to organizational excellence. EOQ looks forward to continuing its long-standing collaboration with JUSE and to strengthening the ties between the European and Japanese quality communities in the years ahead.

JUSE 80th Anniversary is my first institutional assignment as EOQ Presidente and thus it has a very special meaning. As EOQ President I will put significant effort strengthening EOQ global partnerships, namely with our Japanese friends. I wish JUSE a big celebration and look forward to work with JUSE in order to have “a better world through Quality”.

With my highest consideration,
Paulo SAMPAIO

(翻訳)

JUSE80周年に寄せて

－ 品質の卓越性ととも歩んだ80年を祝して

拝啓

欧州品質機構（EOQ）は、日本科学技術連盟（JUSE）の2026年5月に迎えられる80周年を、心よりお祝い申し上げます。

品質経営の分野において世界を代表する機関の一つであるJUSEは、長年にわたり、世界の品質に関する考え方と実践を大きく形づくってこられました。

EOQは、この記念すべき節目をともに祝うとともに、品質、イノベーション、そして組織の卓越性への継続的なご貢献に、深い敬意を表します。

祝意と感謝

EOQは、JUSEが80年にわたり発揮してこられたリーダーシップと卓越した活動に、心より敬意と祝意を表します。

JUSEの先駆的な取り組みは、世界の品質経営に大きく、そして長期にわたる影響を与えており、ヨーロッパにおける組織の卓越性に向けた現代的アプローチの発展にも寄与しています。

EOQは、これまで築いてきたJUSEとの長年の協力関係を今後もさらに発展させ、欧州と日本の品質コミュニティの絆を一層強めていくことを楽しみにしております。

JUSEの80周年は、EOQ会長としての私にとって最初の公式な取り組みであり、特別な意味を持つものです。

EOQ会長として、特に日本の皆様との関係をはじめとする国際的なパートナーシップの強化に、積極的に取り組んでまいります。

JUSEの盛大なご記念を心よりお祝いするとともに、「品質を通じてより良い世界を実現する」という共通の理念のもと、今後もともに歩んでいけることを楽しみにしております。

敬具

パウロ・サンパイオ
欧州品質機構（EOQ）会長

Congratulatory Message on the Occasion of the 80th Anniversary of JUSE



Lars Sörqvist

Chair, International Academy for Quality

On behalf of the International Academy for Quality, it is a great honor to extend my warmest congratulations to the Union of Japanese Scientists and Engineers on the occasion of its 80th anniversary.

Since its founding in 1946, JUSE has played a central role in the development of modern quality management. In the aftermath of World War II, when Japan faced immense challenges, JUSE became a driving force behind the development of systematic approaches to quality and continuous improvement. Through initiatives such as the introduction of statistical quality control, the establishment of the Deming Prize, the introduction of QC-circles, and the promotion of company-wide quality control, JUSE contributed decisively not only to Japan's remarkable industrial transformation but also to the global quality movement.

What is particularly remarkable is how generously JUSE has shared knowledge with the world. By translating and disseminating key literature in quality management and by actively fostering international collaboration, JUSE helped make advanced quality thinking accessible far beyond Japan. This spirit of openness and contribution has inspired organizations and companies worldwide, and continues to do so today.

JUSE is also a founding partner of the International Academy for Quality. Through this collaboration, JUSE has helped strengthen the global community of quality professionals and supported our shared mission to advance quality for the benefit of humanity.

On a personal note, my own connection to JUSE goes back many years through my mentor, Dr Lennart Sandholm, who held JUSE in the highest regard. Through him, I came to appreciate the depth, rigor, and long-term orientation that characterize Japanese quality thinking. Over the years, I have had the privilege of interacting with JUSE and its representatives, and I have always found them to be exceptionally supportive, competent, and generous. Through these interactions, I have learned a great deal about Total Quality Management, not only as a set of methods, but as a philosophy grounded in leadership, respect, and continuous improvement. I have also had the pleasure of building lasting friendships with many esteemed colleagues within JUSE.

As we look to the future, the role of quality is more important than ever. The integration of quality with sustainability will be essential in addressing the major challenges facing our world. At the same time, the rapid development of digital technologies and artificial intelligence places new demands on quality, data, and leadership. In this evolving landscape, the principles that JUSE has championed for decades, systematic improvement, fact-based decision-making, and a strong customer focus, will remain fundamental.

Once again, I extend my sincere congratulations to JUSE on this remarkable milestone. I wish you continued success in your important work and look forward to further strengthening our collaboration in the years to come.

With highest respect and appreciation,
Dr Lars Sörqvist
Chair, International Academy for Quality

(翻訳)

日本科学技術連盟 (JUSE)

80周年に寄せて

拝啓

国際品質アカデミー (IAQ) を代表し、日本科学技術連盟 (JUSE) の80周年に際し、心よりお祝い申し上げます。

1946年の設立以来、JUSEは現代の品質経営の発展において中心的な役割を果たしてこられました。第二次世界大戦後、日本が大きな困難に直面していた時期において、JUSEは品質と継続的改善の体系的な手法の確立を力強く牽引しました。統計的品質管理の導入、デミング賞の創設、QCサークル活動の普及、さらには全社的品質管理の推進などを通じて、日本の産業の飛躍的な発展に大きく貢献されただけでなく、世界的な品質運動の発展にも決定的な役割を果たされました。

特に印象的なのは、JUSEがその知見を世界に対して惜しみなく共有してこられた点です。品質経営に関する重要な文献の翻訳・普及や、国際的な連携の積極的な推進を通じて、日本発の高度な品質思想を世界へと広げてこられました。この開かれた姿勢と貢献の精神は、世界中の企業や組織に大きな影響を与え、今日に至るまで多くの人々を鼓舞し続けています。

また、JUSEは国際品質アカデミーの創設メンバーの一員でもあります。この協力関係を通じて、世界の品質専門家コミュニティの強化に寄与されるとともに、「人類のための品質の向上」という共通の使命の推進に大きく貢献されています。

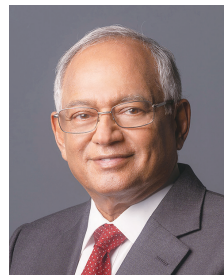
個人的なことを申し上げますと、私とJUSEとのご縁は長年にわたります。私の恩師であるレナート・サンドホルム博士が、JUSEを非常に高く評価しており、その影響を通じて、日本の品質思想が持つ深さ、厳格さ、そして長期的な視点に対する理解を深めることができました。これまでJUSEおよび関係者の皆様と交流させていただく機会に恵まれましたが、常に温かく、専門性が高く、そして寛大なお人柄に触れてまいりました。そうした交流を通じて、TQMを単なる手法としてではなく、リーダーシップ、尊重、継続的改善に根ざした哲学として学ぶことができました。また、JUSEの多くの素晴らしい仲間とのかけがえのない友情を築くことができたことも、大きな喜びです。

これからの時代を見据えると、品質の役割はこれまで以上に重要になっています。品質と持続可能性の統合は、私たちが直面する大きな課題に対応する上で不可欠です。同時に、デジタルテクノロジーやAIの急速な発展は、品質、データ、そしてリーダーシップに新たな要請をもたらしています。このような変化の中にあっても、体系的な改善、事実に基づく意思決定、そして顧客志向といった、JUSEが長年にわたり提唱してきた原則は、今後も変わらず重要であり続けるでしょう。

改めまして、このたびの記念すべき節目に際し、心よりお祝い申し上げます。今後のさらなるご発展とご活躍をお祈りするとともに、今後一層の連携強化を楽しみにしております。

敬具
ラース・ソルクヴィスト博士
国際品質アカデミー 会長

“A Transformation Journey with JUSE: Reflections from Indian Experience”



Venu Srinivasan
TVS Motor Company
Chairman Emeritus

Dear Distinguished Leaders, Members, and Associates of JUSE,

On behalf of TVS Motor Company and its associate companies, I extend my warmest congratulations to JUSE on its 80th anniversary. Your commitment to Total Quality Management (TQM), and your tireless dedication to sharing it with the world has shaped industry and redefined the idea of excellence.

JUSE is the cornerstone of quality thinking across the world. Its historic role in rebuilding post-war Japanese industry through the systematic adoption of TQM is well known. Yet what is perhaps less celebrated, and which has deeply shaped industries beyond Japan's borders, is JUSE's extraordinary generosity in taking that excellence global. Through the tireless commitment of its eminent Counsellors and Professors, JUSE shared its deepest knowledge freely and wholeheartedly.

I speak from personal experience. My own journey, and that of Sundaram Clayton and TVS Motor, has been deeply transformative with JUSE's guidance. Beginning in 1990 with the late Professor Kurahara, and continuing through the invaluable contributions of Professor Washio, the late Professor Tsuda, and eminent scholars such as Professor Akao, Professor Kume, Professor Shiba, Dr. Kano, Professor Kubota, and Professor Ando — we witnessed a rare dedication that embraced our journey and understood our challenges. They helped us see past our struggles, identify opportunities and embrace learning and innovation.

Sundaram Clayton and TVS Motor went on to win the Deming Prize in 1998 and 2002 respectively, milestones made possible only through this extraordinary commitment.

JUSE's teaching philosophy mirrors the Indian tradition of the guru-sishya relationship where the teacher nudges the student to discover answers from within. This approach is uncomfortable at first. It is rigorous, offering no quick fixes. It teaches you to think, and find purpose in every little act. This style of guided self-discovery instilled in us a culture of continuous questioning, deep ownership, discipline and the relentless pursuit of improvement. We call our TQM philosophy, shaped by our learnings, the 'TVS Way'.

JUSE's impact on Indian industry, particularly the automotive sector, has been profound, turning a fledgling industry into a global powerhouse, earning our lasting and immense gratitude.

Through its latest partnership with the Indian Foundation for Quality Management (IFQM), JUSE has extended its mission to strengthen practices across India's medium and small industries — a contribution that will bear fruit for generations.

Today, more than ever, we need the transformative ability to think deeply for ourselves, as the exponential leaps in technology and Artificial Intelligence throw new challenges our way. I am confident that JUSE will continue to guide organisations to navigate this and find opportunities where they seem impossible.

I wish JUSE continued success in its mission. Its contribution to industry is truly global, selfless, and enduring.

Yours sincerely,
Venu Srinivasan
[Chairman Emeritus]
TVS Motor Company

(翻訳)

「JUSEとともに歩んだ変革の道 －インドでの経験から」

拝啓

日本科学技術連盟（JUSE）の80周年に際し、心よりお祝い申し上げます。
TVSモーターおよび関連会社を代表し、謹んでお慶び申し上げます。
TQM（総合的品質管理）の推進と、その価値を世界に広く伝え続けてこられた皆様のご尽力は、産業のあり方を大きく変え、「卓越性」という概念そのものを再定義してきました。

JUSEは、世界における品質思想の礎とも言える存在です。戦後の日本において、TQMを体系的に導入し、産業復興を支えた歴史は広く知られています。しかし、それ以上に特筆すべきは、その卓越した知見を惜しみなく海外へ広げてこられた寛大な姿勢です。多くの顧問や教授陣の献身的な活動により、JUSEはその深い知識を世界中に共有してこられました。

私自身、その恩恵を強く実感している一人です。
1990年に故・倉原先生のご指導を受けて以来、鷲尾先生、故・津田先生、そして故・赤尾先生、久米先生、司馬先生、狩野先生、久保田先生、安藤先生といった卓越した先生方から継続的にご指導をいただきました。

先生方は、私たちの歩みに真摯に寄り添い、課題を深く理解しながら、困難の先にある可能性を示し、学びと革新へと導いてくださいました。
その結果、スングラム・クレイトンは1998年に、TVSモーターは2002年にデミング賞を受賞することができました。これらは、JUSEの並外れたご支援なくしては成し得なかった成果です。

JUSEの指導哲学は、インドにおける「師弟関係（guru-sishya）」の伝統にも通じるものがあります。すなわち、教師が答えを与えるのではなく、学ぶ者自身が内側から答えを見出すよう導くというものです。

この方法は、当初は決して居心地のよいものではありませんでした。しかし、物事を深く考え、あらゆる行動に意味を見出す力を養います。
こうした自己発見型の学びは、私たちに「問い続ける文化」「主体性」「規律」、そして「絶え間ない改善への追求」を根付かせました。私たちは、この思想を「TVS Way」として実践しています。

JUSEがインド産業、とりわけ自動車産業に与えた影響は計り知れません。発展途上であった産業を、世界に通用するレベルへと押し上げてくださったことに、心より深い感謝を申し上げます。

さらに近年では、インド品質経営財団（IFQM）との連携を通じて、中堅・中小企業への品質経営の普及にも尽力されており、その取り組みは次世代にわたって大きな実りをもたらすことでしょう。
今日、急速に進化するテクノロジーやAIは、新たな課題を私たちに突きつけています。だからこそ、これまで以上に「自ら深く考える変革力」が求められています。
JUSEはこれからも、困難の中にもこそ機会を見出し、組織を導く存在であり続けると確信しております。

日本科学技術連盟の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。
そのご貢献は、まさに世界的であり、利他の精神に満ち、そして永続的なものです。

敬具

ヴェヌ・スリニヴァサン
TVSモーター・カンパニー 名誉会長

